

清方描く、物語の女性

追憶の美人 日本画家・鎌木清方
2014.4.5[土]—5.11[日]

人画の巨匠・鎌木
清方(1878～1972)。

その画業は挿絵から

始まりました。

デビューは15歳のとき、父・條野採菊の創刊した「やまと新聞」に描いたコマ絵でした。やがて挿絵画家として人気を博し、さらに日本画家として大成する背景には、小説家・泉鏡花の存在がありました。

清方が鏡花に初めて出会ったのは、明治34年(1901)清方23歳のときでした。清方は新進の挿絵画家、一方の鏡花は文壇の寵児として活躍していました。

二人は互いの仕事に関心を寄せていて、翌年、『三枚續』の口絵により競演が実現しました。この作品は高く評価され、以後、鏡花の挿絵の仕事が増えるとともに挿絵画家としての名も高まっていきました。清方はどんなに多忙を極めても原稿を熟読し、行間に潜む登場人物の心情や作家の文意をくみ取り表現する研究を欠かしませんでした。それは大画面の美人画の制作にも生かされました。

鏡花の小説には純潔な心の女性が登場します。彼女たちは思いを寄せる人に対する気持

ちがあまりに一途なために悲劇を招きます。「遊女」は小説『通夜物語』に登場する遊女・丁山です。丁山は恋人の絵描き玉川清が遊女を妻にしたゆえに親戚に疎まれていることを憂い自決、その血で玉川に絵を描かせることで、相愛を永遠のものとしました。火鉢にもたれ掛かる丁山の、襟を落した着物やほつれた髪に色香が漂いますが、空を見据えるまなざしには意志の強さを感じさせます。丁山の命がけの決意を、清方は思いを込めて表現しました。

清方は画力があっても心の伴わない絵は描きませんでした。顔や着物の美しさのみならず、内なる心の機微をも描き出す、これぞ清方の芸術の真髄です。

代表作をはじめ鏡花本の装丁画など約80点を紹介する本展において、清方描く女性たちの奥深き魅力をご堪能いただきたいと思います。

(学芸グループ主任 河内えり子)

ミュージアムショップ

佐野美術館オススメの新入荷商品！

開化堂 茶筒(小)
11,000円



パッチワーク印傳
眼鏡ケース 8,500円、
通しマチポーチ
16,000円



シルク印傳
財布
25,000円



六角筆筒 800円、
千代紙小箱 800円、
榛原ノート 1,400円、
一筆箋 500円



大日如来坐像 6,000円
当館所蔵「大日如来坐像(重要文化財)」を
かたどった、高さ6.5cmの
オリジナル商品です。

プレゼントコーナー

※抽選で4名様に□マークの品を差し上げます(色デザインは当方で選びます)。「プレゼントコーナー応募」、ご住所、お名前、電話番号、隆泉の感想と隆泉に掲載したい一言コメントを明記の上、佐野美術館「隆泉」係まで郵便かFaxでお送りください。一言コメントのテーマは「人生最初の記憶」です。しめきり：2014年5月15日(消印有効)

・当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

・いただいた個人情報はプレゼントの発送以外に使用いたしません。

※表記の値段は全て税別です。別途消費税がかかります。

和ろうそく大與
お米のろうそく 1,000円、
燭台(丸・四角) 各 1,300円

昭和の日々、空氣、活気に満ちた暮らし 写真展「昭和」 2014.5.23[金]—7.6[日]

年に渡り続いた「昭和」という時代。昭和の写真一枚を見て、も、「懐かしいなあ」と感慨にふける方もいれば、「日本にもこんな時代があったんだなあ」と初めて触れる世界に新鮮さを感じる方もいるでしょう。

この展覧会では、第二次世界大戦前、大正モダニズムの香りが残る昭和初期から、戦中、戦後の暮らし、復興、オリンピックや万博に沸いた高度経済成長期までの約160点の作品を展示いたします。

ペーロマで遊ぶ子供たちを写した土門拳(1909-1990)の一枚。どの子も真剣に勝負の行方を見つめています。戦後のベビーブームに生まれた子供たちは、よく裏路地に集まって遊びました。

青森県の酸ヶ湯温泉は、現在も多くの湯治客で賑わう温泉地。濱谷浩(1915-1999)は、樋に熱湯を流し跨いで暖まる「ふかし湯」を楽しむ湯治客の姿をシャッターにおさめました。満面の笑顔で連なって樋に跨る男女の姿は、おおらかだった時代の空気と幸福感を見る者の笑みを誘います。

若い女性が大通りを堂々と歩いてゆく一瞬を切り取った林忠彦(1918-1990)の一枚。オードリー・ヘップバーンの映画、「麗しのサブリナ」から大流行したサブリナパンツとペッタンコ靴という最先端のファッションに身を包み、自信に満ちた瀧瀧とした女性の姿です。



ふかし湯 青森・酸ヶ湯温泉
昭和32年 撮影／濱谷浩

端のファッショ nに身を包み、自信に満ちた瀧瀧とした女性の姿です。

他にも木村伊兵衛(1901-1974)、入江泰吉(1905-1992)など、時代のきらめきを今に伝える作品を残した写真家11名の作品で、時代の移り変わりと共に失われた懐かしい景色や、時代を風靡した風俗など、様々な側面から「昭和」という時代を見つめなおします。一枚一枚の作品からあの時に流れていた空気が感じられる、そんな写真たちをどうぞお楽しみください。

(学芸グループ 志田理子)

